

平成28年度 第3回 図書館協議会報告

- 1 日 時：平成29年3月22日（水）午前10時～12時
- 2 場 所：おおづ図書館 1階 集会室
- 3 出席者：委員 松岡征一郎、江口竜一、太田昭子、岩村優子、古澤理恵、
高本梢、吉田ひとみ、齊藤真（8名）
齊藤教育長、市原教育部長、後藤生涯学習課長
事務局 大隈、宮野

4 議題

(1) 第三次大津町子ども読書活動推進計画（案）について

別紙資料により説明（事務局）

質疑応答

質疑

読書通帳について。30年ほど前、椋鳩十さんの本を読んで、14、5人で話し合って家族ごとにノートをつけることにしました。1月は雪だるま、2月は鬼という風に季節に合わせた絵を書いて、読んだらその絵に色を塗る、というようなことをしました。ただ「何月何日に何を読んだ」だけでは楽しくないだろうと取り組みました。1、2年は続いていましたが、子どもたちもだんだん飽きて面倒になり、長くは続きませんでした。図書館で作る「読書通帳」に関しても「どこに感銘を受けた」など記入するのも良いけれど、作る時に子どもたちの意見を聞いて、どうしたら続くか工夫を検討してはどうでしょう。

答弁

ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

意見

小学校では、学校図書館の前に誰が何冊本を読んだかというグラフを貼ってあるところがあります。それを見ると、友だちはこれだけ読んでいるから負けないように読もうという意欲が出てくるという話は聞きます。図書館に来られない人が学校図書館を利用することになるかと思います。子どもたちがいかに本を一冊でも読むかまわりが工夫すると楽しいと思います。

意見

やはり学校図書館と町の図書館が連携して取り組んでいった方が良いと思います。親も、休みの日は光の森などに買い物に行くだけでなく、連休の1日くらいは図書館に来てはと思います。毎日来ている自分でも「こういう本がある」という発見がありますので、子どもたちもそうだと思います。

意見

通帳がたまったら「ほめる」ということも大切ではないかと思います。やはりほめられるとうれしいです。おはなし会には参加するとシールをもらえます。個人情報がありますので図書館で掲示などは難しいとは思いますが、「ほめる」こと、貯まったらプレゼントをもらえるような何かがあればと思います。お金のかからないもので。図書館からほめられて子どもも親もうれしくなるような。

答弁

1冊記入が終わって持ってきていただいたら何かプレゼントを渡すなどはできると思います。

意見

今の話の中で、押さえておかなければならないことがひとつあります。子どもたちが文庫に本を借りにくる中で「文庫の本は読む本、学校の本は借りる本」と言ったことがあります。どういう意味か尋ねると、学校ではたくさん借りると毎月賞状をもらえるそうです。賞状を持って帰るとお母さんが喜んでほめてくれるので、実際は読まない本でも一生懸命借りているとのことでした。学校にも相談しましたが何も対応はありませんでしたので、文庫に来る子どもたちに「やっぱり本当に自分が読みたいと思う本を借りたいよね。だけど、冊数だけを競って賞状をもらっても喜べる？」という話をしました。競争にならないような工夫が必要かと思います。ものではなくて一人ひとりへのほめ言葉の方が良いのかなと思います。

答弁

機械で記帳できる「読書通帳」になると、簡単にできるのでそのようになる可能性もあるかなと思います。貸し出しが増えるとは言っても冊数のために借りている子もいるかもしれません。夏休みに図書館でスタンプラリーをされる小学校があるのですが、やはり読まずに返してまたすぐ借りる子がいるという課題が出て、方法を変えられたこともあります。

数を競うだけだとやはりそうなる可能性もあるし、完全に自分で手書きだとなかなか続かない可能性もあるので、現在出している貸出期限のレシートをシールにするという方法もあります。それだと通常のレシートの2倍くら

いの費用はかかりますが、機械代は必要ありません。まずは手作りの通帳で様子を見ながら、先進地の様子を見ながら、導入を検討していても良いのかなと思います。

意見

第2章1計画の目標の「本に、未来に、子どもわくわく！」の下の文章「すべての子どもたちが（略）」のどこかに「生きる力を育む」という言葉を入れてほしいです。

答弁

入れます。

意見

中学生より小学生の方が、余裕があり読書する時間もあるかなと思います。大津中学校に読み聞かせに行っていますが、読み聞かせの時間の前に自分で本を読んでいる子が何人か必ずいます。そういう子どもは一生「今日は何をしよう」と迷うことはないと思います。やはり自分でやることを探してやれると思います。そういう子どもを一人でも二人でも増やせたらと思います。中学生にもなるとただ「読みなさい」と言っても難しいので、小学生のときからそういった習慣を作ることが大切ではないかと思います。

意見

文庫で、まだ字を読めない子どもが字の多い本を借りたりすると、親が「またこんな本を借りて」と言うことがよくありましたが「この子にとってこの本が大切な本なんだからそんなこと言わないで」と言っていました。字が多くても挿絵があったりして、その子は選んでいます。子どもたちが自由に本を選べる環境を作ってあげたいと思います。その子にとっての「この本好き」という本に出会わせたいなと思います。中には、一度返してまた借りて、ずっと同じ本を借りている子もいました。そういう本に出会わせたいです。

意見

孫も同じ本のシリーズ8冊を何度も繰り返し読んでいたことがあります。何度も読んで深めていくという読み方もあるかと思います。そういった意味でも図書館はとても大事です。

(2) 熊本市連携中枢都市圏構想について

別紙資料により説明（事務局）

質疑応答

質疑

菊陽町図書館は熊本市民の利用が大幅に増えることを恐れているのではないのでしょうか。

答弁

菊陽町は熊本市と隣接していることも大きいと思います。大津町でいうと、合志市の図書館でも借りることができますが、遠いのでそれほど利用者はいないのではないかと思います。町内在住の方であれば取り寄せ（リクエスト）もできますので、よほど直接その本を見たいというのであれば、通常合志市まで行く方は多くないと思います。熊本市と大津町も同じだと思います。考えられるのは、熊本市から阿蘇市方面に通勤などされていて肥後大津駅を利用される方が、図書館も利用されるかもしれません。まったく利用がないわけではないと思いますが、大津町を通る方など、少しでも大津町に関連がある人なのではないかと思います。返却も、どこでも返却できるわけではなく、熊本市立図書館で借りた本は熊本市立図書館で返さなければなりません。

質疑

おおづ図書館に借りたいと思っている本がなかったときは、他の図書館から借りてくれると思います。その制度をもう少し広げることにはできませんか？

答弁

現在、1年間に30冊までリクエストすることができます。

答弁

「他の図書館から借りる」というよりも「リクエスト」という形でお受けして、他の図書館から借りるか購入するかはこちらに一任していただいています。また、他の図書館から借りる場合は、近隣だけでなく県内各地、または県外から借りることもあります。

意見

そういった制度を知らない人もいますので、知らせていってはどうかと思います。

答弁

リクエスト制度に関しても広報がもっと必要かと思いますが、検討していきたいと思っています。

質疑

どちらにしろ、菊陽町のように恐れるほどではないということですね。進めるということではないのでしょうか。

答弁

この都市圏構想というのは、図書館や生涯学習関連の施設についてだけでな

く、全般的にやっています。その中のひとつに図書館があったのですが、昨年の震災で話が進んでいませんでした。それで今回、協議会のみなさんにお話を
して、それほど影響もないだろうから良いということであれば進めさせていただ
ければと思います。

答弁

大津町に在勤されている方が在勤証明書を出さなくても良くなるというメリ
ットもあります。在勤証明書をわざわざ出さないといけないなら、職場に言
うのも面倒だし利用はやめるという方も、中にはいらっしゃいます。そういっ
た方にとっては使いやすくなるかと思います。

(3) 大津町図書館利用規定(内規)の改正等について

別紙資料により説明(事務局)

質疑応答

質疑

展示コーナには出展者が常にいらっしゃるわけではないですよ。

答弁

そうです。中にはいらっしゃることもありますが、基本的に出しっぱなしな
ので、子どもたちがさわって倒したりすると危ないこともあるかと思い、陶器
等は省いたところではあります。

作品が壊れてしまったときの責任を何も謳っていなかったため、今回入れま
した。こうしたことをもう少し簡潔に書いたものを、申込みされた方にお渡し
しようと思っています。

質疑

今回の案の中には入っていないのですが、もう一点、第10条の「損害賠償」
についてです。現在、弁償していただく場合は、流通している本であれば同じ
ものを購入していただき、差し替えという形で破損した方はお渡ししています。
ただ、もう入手できないものは代替本を購入していただきます。その場合は元
の本はお返ししていません。貴重なもので、図書館で保管した方がよければ保
管し、処分ということであればリサイクル本頒布会に出すこともあります。こ
れについて、買って返したのだから元の本はくれていいのではないかというご
意見がありました。現在の規定には弁償についてのみで、元の本をどうするか
については言及していません。そこまで文章化した方が良いでしょうか。

意見

ひとつ考えられるのが、一般の方が入手できない貴重な本をわざと汚して、代替弁償したということで、代わりにその貴重な本を手に入れる、ということが発生する可能性があります。それを考えると、代替弁償の場合はお渡しできないかな、と思います。

出せる場合はリサイクル頒布会に出しますので、という形にした方が良くと思います。

答弁

同じ本であれば、図書の番号も同じものを使えますが、違う本であれば番号も新しく取り直します。その前の本をどうするかはこちらで一度考えて、保管するか頒布会に出すかにした方が良くと思いますので、やはり明文化しようと思います。

(4) 移動図書館「みらい号」の巡回場所について

別紙資料により説明（事務局）

質疑応答

質疑

今の利用はどのような感じでしょうか。

答弁

桜丘集会場に関してはほとんどいらっしやらない状況です。旧 JA 菊池大津南支所と吹田団地に関しては、それぞれ何名か常連の方がいらっしやって、移動図書館で地域に伺うというより担当がその方に向けて選書して持っている状況ですが、みなさん心待ちにされているようです。あとは学校や保育園、施設などはそれぞれ利用していただいています。

質疑

旧 JA 菊池大津南支所とはどこでしょう。

答弁

錦野だと思います。

意見

分かりづらい名称は考えていきたいと思います。

質疑

本の選び方も行き場所も変えているのでしょうか。

答弁

変えています。幼稚園保育園は絵本を多めに、小学校は児童書、高齢の方が多いところは大活字本など、担当の職員がそれぞれ変えて持って行っています。

意見

大事なことですね。そうやって移動図書館で本に出会った子たちがまた図書館に来てくれるといいなと思います。

(5) その他

説明

第三次大津町子ども読書活動推進計画（案）については、4月の教育委員会にかけて進めさせていただきたいと思います。

今年3回会議をさせていただきましたが、要約した会議録を公開したいと思っています。来年度の会議で、内容の確認をさせていただいて、公開したいと思っています。

図書館協議会の委員募集を行っておりますので、またよろしくをお願いします。

感想・意見

委員

生涯学習情報誌について、ずいぶん分かりやすくなりましたが、まだ見ない人が多いかと思います。あまり詰め込みすぎないで、情報だけでなくこんなこともありました、というコメントがちょっとあると親近感があるのではないかと思います。

委員

子どもの読書冊数について、1冊の本について、読んで語り合うなど深める活動ができればいいなと思います。

それから、40～50代の男性の利用が少ないなという印象です。その世代の人たちがいかに図書館に親しむかということで、夜の時間に集まって、読んだ本について語り合うなどしたら楽しいかと思います。若い方の婚活、出会いの場、が図書館や本を通してできないかなと。子どもだけでなく大人が利用できるような交流の場になると楽しいかなと思います。

委員

子どもたちに本を読んでほしいなと思いますが、今子どもたちの環境を考えると、お母さんも働いていて、家に帰って家事も忙しく、子どもと話すのも後回しになってしまうような状況ではないかと思います。そのような忙しい毎日の中で、本を中心にした時間を10分間でもどのようにして作れるかなと考えます。働いているとごはんを食べるのも8時くらいになります。高齢者

の力を何か借りられないかなと思います。

委員

40～50代の利用が少ないという話が出ましたが、団塊の世代の人口が多いので、その人たちにも図書館を利用してもらうことが社会参加することにつながり、認知症予防になるのではと思います。団塊の世代の人たちにも利用カードを作ってもらうなど利用の啓発をしていってはどうかと思います。

委員

中高生の読書量の低下は学校でも同じ課題があります。どのようにして本を読んでもらうか、本の楽しさに気付いてもらうか、試行錯誤しながらやっているところです。大津町には各小中学校に学校司書がおり、現在の学校での子どもの状況が分かる大人がいるので、図書館の職員と学校司書が連携して、子どもたちを図書館につなぐかけはしになればと思います。

委員

先日、図書館からの呼びかけで図書館友の会で防災ずきん作りの講座を行いました。参加者は少なかったのですが、熊本地震よりずっと前からあったのに気付かなかった防災ずきんの作り方の本などを知ることができました。図書館と友の会と一緒に、図書館の本を利用しながら、手作りの講座などをしていきたいと思っています。

委員

大津町にずっとおりましたので、専任で正規の司書がいるのが当たり前だと思っていました。ですが、県の読書アドバイザーとして5年目になり、県内を回っていると、1人で5校兼務のところもあり、大変驚きます。ただ、正規の職員でないと勤務時間が短くなり、朝や放課後は図書館が開いていないことになります。そうすると子どもたちは「朝（夕方）は図書館は開かないんだ」と思い、それで6年間過ごしてしまうと子どもたちへの影響は大きいと思います。心の居場所にも図書館はなっています。勤務時間外に調べ学習などの授業が入るとボランティアで仕事をされる学校司書の方もいらっしゃいます。館内のレイアウトを変えたくても誰に相談して良いのか迷っている方もたくさんいらっしゃいます。現在の大津町の状況も素晴らしいのですが、30分でも良いので時間が長くなるといいなと思います。公共図書館の利用者である子どもたちを作るのは学校図書館ですから、少しでも状況が良くなった方が子どもたちは幸せになるのではないかなと思います。

委員

子どもたちは成長していき後戻りはできないので、そのときそのときに対応していくことが必要ですね。

委員

本との出会いを持つために、図書館について、本のことも図書館でこういうこともできるということも伝えていくことが大事だと思いました。

メールマガジンに関して検討していただけるということで、メールは若い方も使われますので、ありがたいなと思います。

リクエストという制度について、知りませんでした。専門書になると高額になり自分では買えない本も多くありますので、そういった本を読みたいという人で図書館を利用したい方もいるのではないかと思います。

移動図書館について、難しいかもしれませんが、臨時的にでも仮設住宅を回ったりできないかなと思います。